



8:26 こうして彼らは、ガリラヤの向こう側のゲラサ人の地方に着いた。

8:27 イエスが陸に上がられると、この町の者で悪霊につかわれている男がイエスに出会った。彼は、長い間着物も着けず、家には住まないで、墓場に住んでいた。

8:28 彼はイエスを見ると、叫び声をあげ、御前にひれ伏して大声で言った。「いと高き神の子、イエスさま。いったい私に何をしようというのです。お願いです。どうか私を苦しめないでください。」

8:29 それは、イエスが、汚れた霊に、この人から出て行け、と命じられたからである。汚れた霊が何回となくこの人を捕えたので、彼は鎖や足かせでつながれて看視されていたが、それでもそれらを断ち切っては悪霊によって荒野に追いやられていたのである。

8:30 イエスが、「何という名か。」とお尋ねになると、「レギオンです。」と答えた。悪霊が大ぜい彼にはいていたからである。

8:31 悪霊どもはイエスに、底知れぬ所に行け、とはお命じになりませんようにと願った。

8:32 ちょうど、山のそのあたりに、おびたらしい豚の群れが飼ってあったので、悪霊どもは、その豚にはいることを許してくださいと願った。イエスはそれを許された。

8:33 悪霊どもは、その人から出て、豚にはいった。すると、豚の群れはいきなりがけを駆け下って湖にはいり、おぼれ死んだ。

8:34 飼っていた者たちは、この出来事を見て逃げ出し、町や村々でこの事を告げ知らせた。

8:35 人々が、この出来事を見に来て、イエスのそばに来たところ、イエスの足もとに、

悪霊の去った男が着物を着て、正気に返って、すわっていた。人々は恐ろしくなった。

8:36 目撃者たちは、悪霊につかわれていた人の救われた次第を、その人々に知らせた。

8:37 ゲラサ地方の民衆はみな、すっかりおびえてしまい、イエスに自分たちのところから離れていただきたいと願った。そこで、イエスは舟に乗って帰られた。

8:38 そのとき、悪霊を追い出された人が、お供をしたいとしきりに願ったが、イエスはこう言って彼を帰された。

8:39 「家に帰って、神があなたにどんなに大きなことをしてくださったかを、話して聞かせなさい。」そこで彼は出て行って、イエスが自分にどんなに大きなことをしてくださったかを、町中に言い広めた。

イエス様が悪霊を追い出すのは、旧約聖書の救い主の預言の成就で、ご自身が救い主であることを証しているということです。悪霊は人間よりも霊的なことを知っていますから、「いと高き神の子、イエスさま。」ということも知っていたのです。クリスチャンには霊的な権威がありますが、それはあくまでもイエス様の権威によるものですから、私たちは謙遜でなければなりません。

イエス様が悪霊に「底知れぬ所に行け」とは言わなかったのは、まだそのときが来ていないからです。イエス様の十字架によって人々を救いに導き、その上で万物をさばくのです。そうでないと人類は全て滅びに至ってしまいます。

そのような偉大な御計画の中でも、主は人をあわれんで、悪霊から解放してくださいました。主の御計画の中でも、私たちは大いに恵を受けるのですから、安心して主の計画に参画して生きましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？

